

日本河川・流域再生ネットワーク <http://www.a-rr.net/jp/>  <https://www.facebook.com/JapanRRN>

「日本河川・流域再生ネットワーク（JRRN）」は、河川再生について共に考え、次の行動へ後押しする未来志向の情報を交換・共有することを通じ、各地域に相応しい河川再生の技術や仕組みづくりの発展に寄与することを目的に活動する団体です。またアジア河川・流域再生ネットワーク(ARRN)の日本窓口として、日本の優れた知見をアジアに向け発信し、海外の素晴らしい取組みを国内に還元する役割を担います。(Since 2006)

目次

Pages

➤ JRRN 事務局からのお知らせ.....	1
➤ JRRN 会員寄稿記事.....	3
➤ JRRN 会員・ARRN 関係者からのお知らせ.....	6
➤ 会議・イベント案内 & 冊子等の紹介.....	7

JRRN 事務局からのお知らせ (1) JRRN Activity Report

桜のある水辺風景 2019 写真のご応募お待ちしております！ 締切は 5/31 (金) ！

連休いかがお過ごしでしたでしょうか。さて、3 月から募集してきた「桜のある水辺風景 2019」の写真の応募期間も、残すところあと 1 ヶ月となりました。募集開始から桜の開花状況のニュースを追いかけていますが、これから開花するという地域もあり、日本列島は本当に長いなあ実感しています。

ということで、既に桜が散ってしまった地域の方も、これから盛りを迎えるという地域の方もいらっしゃると思いますが、応募締切は同じ **5 月 31 日 (金)** です。デジカメやスマートフォン、PC の中で眠っている写真はありますか？ 今一度確認してみて、ぜひ送ってみてください。また、これからお花見など予定している方、写真のご応募お待ちしております！

ちなみに、今年これまでご応募頂いた方の写真は Facebook ページと Twitter でご紹介していますので、ぜひ見てみて下さい。よろしければ「いいね」を押して頂けると幸いです。また、2010 年の取組開始以来、応募作品は毎年写真集形式にして公開していますので、こちらどうぞご確認ください。

◆Facebook：

<https://www.facebook.com/sakuramizube/>

◆Twitter (今年から開設)：

<https://twitter.com/sakuranomizube>

◆作品写真集 (バックナンバー)

<http://jp.a-rr.net/jp/activity/publication/category/cherryphotos>

2018 年度 写真集



応募方法はこちらです (Eメールの場合)。ニックネームでのご応募も OK です。

送 付 先：info@a-rr.net

メールタイトル：桜のある水辺風景 2019 応募

記載内容：①氏名 (ニックネーム可)、②題名

③撮影年月

④撮影場所 (都道府県・市町村、河川・水辺等の地名)

⑤写真コメント、⑥Eメールアドレス

添付写真：サイズは 3MB 程度をお願いします。



Twitter 画面

(JRRN 事務局・阿部充)

JRRN 事務局からのお知らせ (2) JRRN Activity Report

小さな自然再生普及プロジェクトー 平成 30 年度活動概要総括 & 令和元年度活動予定

「小さな自然再生」研究会の運営幹事として、JRRN が小さな自然再生の普及活動を始めて 5 年目となる平成 30 年度の活動概要を報告させていただきます。

(1) 「小さな自然再生が中小河川を救う VI リターンズ」協力

2018 年 9 月 22 日(土)、応用生態工学会第 22 回全国大会自由集会「小さな自然再生が中小河川を救う！VI リターンズ」を共催し、事例の共有とともに、約 70 名の参加者とともに「効果の検証」を主テーマに議論を深めました。



自由集会の様子

(2) 「小さな自然再生サミット 2019 神戸大会」共催

全国の小さな自然再生の担い手が集い、全国の取組みを共有し、今後の更なる推進に向けた議論を行う「小さな自然再生サミット 2019 神戸大会」を 2019 年 1 月 26 日(土)・27 日(日)に神戸にて開催しました。当日は約 170 名の参加者とともに先進事例発表を通じて知見を深め、その後の意見交換では「小さな自然再生」の技術や関係者との関わり方、今後の方向性について議論を深めました。また本サミットの成果は開催報告書や動画としてウェブサイト等を通じて社会に還元しました。



小さな自然再生サミットの様子

(3) 「講習会～iRIC で学ぶ川の流れ(初級)」共催

サミットのサイドイベントとして、『講習会～iRIC で学ぶ川の流れ(初級)～』を開催しました。本講習会は、小さな自然再生の効果を高めていくための技術向上を目的に開催し、北海道大学大学院・久加朋子先生を講師にお招きし、iRIC(河川の流れ・河床変動解析ソフトウェア)の基礎的な動作と、平面 2 次元河床変動モデル Nays2DH を利用した河川の流れを計算する演習を 35 名の参加者とともに行いました。



iRIC 講習会の様子

(4) 「水辺の小さな自然再生データベース」公開

小さな自然再生サミットを通じた全国の仲間の繋がりの強化とともに、これまでの全国の先進的取組みから得られる教訓や技術を共有していくことを目的として、水辺の小さな自然再生の実践事例を集約し、全国の事例を地図から検索できるデータベースを制作・公開しました。現在、全国 34 の水辺でできる小さな自然再生の取組み事例を紹介しています。

小さな自然再生の事例(地図から検索) : 34か所



小さな自然再生の事例データベース画面

なお、新たな元号を迎えた今年度は、公益財団法人河川財団より河川基金の助成をいただき、全国の「小さな自然再生」活動から得られた経験や技術等を集約した「**できることから始めよう 水辺の小さな自然再生事例集 II**」を皆様とともに制作・普及してまいりますので、ご協力をよろしくお願いいたします。

(JRRN 事務局・和田彰)

※報告書: <http://jp.a-rr.net/jp/activity/publication/237>

※動画: <http://jp.a-rr.net/jp/news/info/1067.html>

水辺からのメッセージ No.120

岡村幸二 (JRRN 会員)

八つ橋の先に四聖堂： 桜に誘われ八つ橋で思考をめぐらす



撮影：2019年4月（東京都中野区・哲学堂公園）

◆公園の池に定番の八つ橋

哲学堂公園内の親水池には八つ橋があります。数枚の板をジグザグに掛けることで景趣が生まれます。知立市の無量寿寺のカキツバタの池にある八つ橋が、発祥の地と言われています。

◆井上円了により創設

明治37年、小石川原町（現文京区白山）開設の哲学堂大学（現東洋大学）を記念して「四聖堂」が建設されました。孔子・釈迦・カント・ソクラテスを祀り、「哲学堂」とも称しました。

■ 連載『水辺からのメッセージ』のバックナンバーはJRRNホームページ内の以下のページよりご覧いただけます！
<http://jp.a-rr.net/jp/news/member/category/mizube>

河川書の探求(13)

テムズ川の流れ・水運・歴史・文化

古賀邦雄・古賀河川図書館 (JRRN 会員)

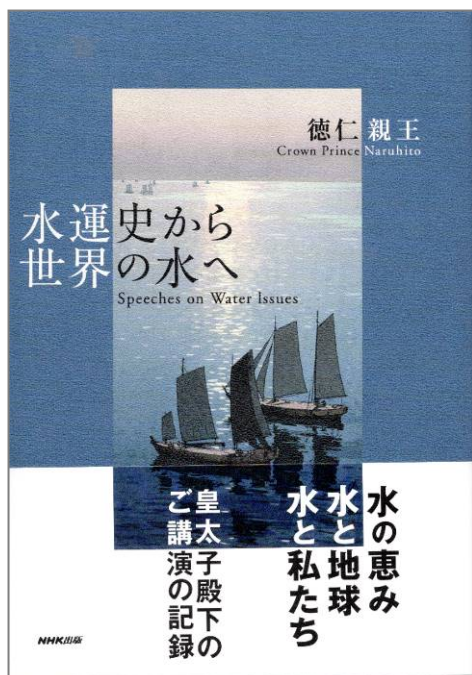
1. テムズ川の流れ

テムズ川は、その源をコッツウォルズ丘陵南部、グロスタシャー州サイレンセスター近郊のケンブルとコーツのほぼ中間、テムズヘッドと呼ばれる場所(標高 110m)に発する。多数の川と合流して、ロンドンに至り、サウスエンドで北海に注ぐ。長さ 346km、流域面積 1 万 2,935km² であるが、河口部で右岸から合流するメドウェイ川を支川とみなすと流域面積は 1 万 6,343km² となる。

メイデンヘッドからウインザー間には、洪水時の流下能力を目的とした長さ約 12km の 2 次水路・ジュビリー川が 2002 年に開削され、また、キングストンからリッチモンドの間、河口から約 89km 地点にはデディントン水門が設置されている。これより下流は感潮域になっている。ウーリッジ上流には、テムズバリアと呼ばれる防潮堰が 1984 年に設置されている。

2. テムズ川の水運

徳仁親王著『テムズとともにー英国の二年間』(学習院総務部広報課・1993 年)では、テムズ川水運の変遷を論じる。製粉業者の水車の利用から、石炭の運送、上流から、ビールやウィスキーの原料であるモルトがロンドンに運ばれ、植民地からは砂糖、煙草、米、茶などが輸送された。しかし 19 世紀、石炭などが鉄道運送、トラック貨物輸送に移り水運が次第に衰退していく過程を捉える。



同著『水運史から世界の水へ』(NHK 出版・2019 年)では、第 5 章 17～18 世紀におけるテムズ川の水上交通について、河川改修を含めて述べられている。17 世紀以前のテムズ川は交通路として利用すると言うより河川は漁民が設置した築や製粉業者が水車用の動力源としての堰が設置され輸送業者と紛争が生じていた。13 世紀には輸送業者と製粉業者の妥協策として、フラッシュ・ロックが造られる。これは製粉業者が設けた堰に船が通れる開閉式の水門が設置された。

それから、航行の妨げになる浅瀬には河川改修が施行された。さらに、バウンド・ロックと呼ばれる閘門が設置された。1751 年以降、新たなバウンド・ロックの建設、川沿いに船を曳くために付けられた馬用の小道(トーイング・パス)、浅瀬の浚渫、オックスフォード運河の開削など、水路網の整備がなされたとある。

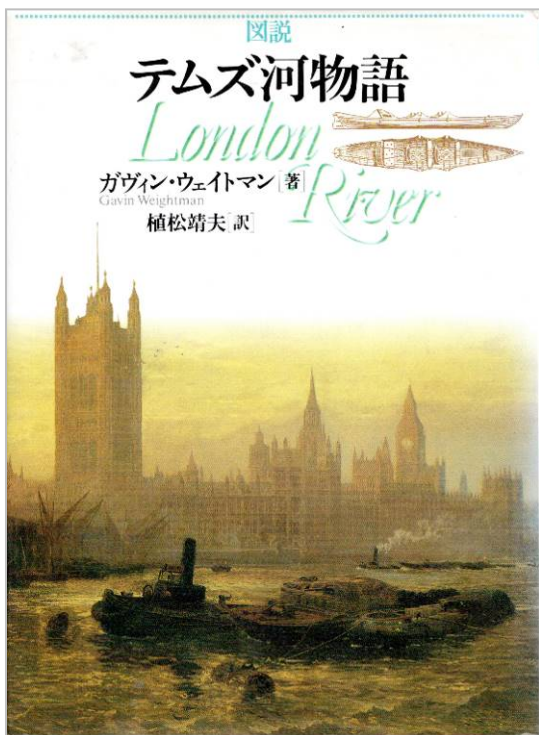
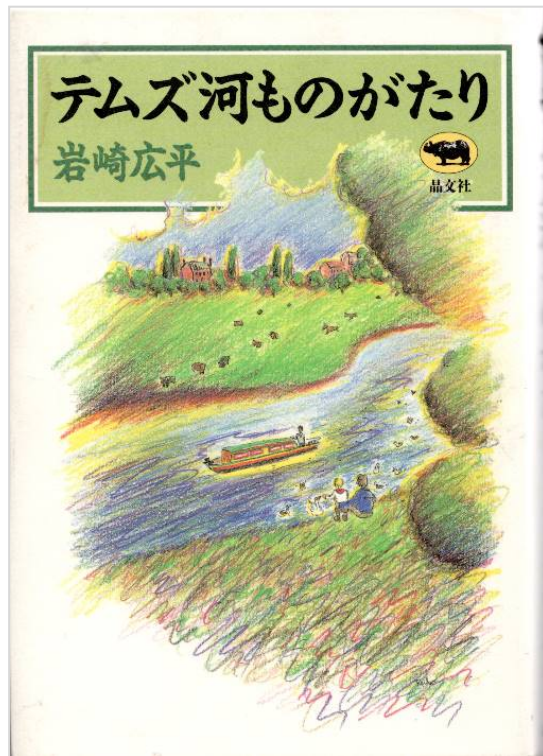
3. テムズ川ものがたり

小川和彦著『テムズ川橋ものがたり』(武蔵野書房・2006 年)は、ビッグ・ベンと大観覧車のウェストミンスター橋、シネマ「哀愁」の橋・霧の街のウォータール橋、文豪夏目漱石の散策の道のロンドン橋から塔橋を巡り、その魅力を述べている。三谷康之著『事典・イギリスの橋ー英文学の背景としての橋と文化』(日外アソシエーツ・2004 年)には、中世は政治・社会情勢の不安定から旅も危険性が伴い、旅の安全面の便宜を図るために、修道士の団体による橋や道路の普請が行なわれ、橋の上に礼拝堂が建てられた。

岩崎広平著『テムズ河ものがたり』(晶文社・1994 年)は、テムズ川の流れを上流から河口まで綴った歴史紀行の書である。

ガヴィン・ウエイマン著『テムズ河物語』(東洋書林・1996 年)の書の中で、洪水の記録がある。昔からテムズ川は氾濫して堤防を越え、建物を破壊し、住人と家畜を溺れさせた。この災害は古くはローマ時代まで遡ると言う。1953 年には、東海岸に悲劇的な洪水が起こり、16 万エーカーの農地と 200 の工場、200 マイルの線路、水死者は 300 名を超えた。

その後も 1968 年、1974 年、2003 年と起こり 2007 年の洪水では英国南部で約 35 万人断水被害を受け、5 万世帯が停電した。最近では 2014 年 2 月ロンドン市に被害が生じ、一部の地域では 1 ヶ月以上も洪水の影響を受けた。



小説としてリチャード・ドイル著『ロンドン大洪水』(サンリオ・1982年)がある。

4.テムズ川の歴史と文化

相原幸一著『テムズ河－その歴史と文化』(研究社出版・1989年)には、テムズヘッドの上流からロンドン・河口まで巡り、テムズ・セヴァン運河、マグナカルタ調印の地ラニーミード、日本の唐門と高浜虚子の句碑<雀等も人を恐れぬ国の春>など、事細かに纏められている。

その内容は上流篇で、テムズ・ヘッドからレチレイドまで、ケルムスコットからオックスフォードまで、サンフォードからレディングまで、ソニングからメイドンヘッドまで、ウインザースティンズまで、レイラムからキングストン・アポン・テムズまで。

ロンドン・河口編では、テディントンからリッチモンドまで、キュー植物園からバタシーまで、チェルシーからランベスまで、ウエストミンスター橋からロンドン塔まで、タワー橋から河口までのその歴史と文化を論じる。

最後に、岡本誠著『テムズ川ウォーキング』(春風社・2004年)は、オックスフォードからウインザーまでの120kmを踏破した記録である。

以上、テムズ川の書をいくつか挙げてきたが、今日のイギリスの文化、政治、経済の発展はテムズ川なくしては、成立しえなかったと言える。



■ 連載『河川書の探求』のバックナンバーはJRRNホームページ内の以下のページよりご覧いただけます！

<http://jp.a-rr.net/jp/news/member/category/library>

JRRN 会員・ARRN 関係者からのお知らせ (2019年4月末まで提供分) Information from member

【JRRN 会員からの提供情報】

■ 第1回 北海道の応用生態工学 掲載論文の解説と展望 その1 (5/31開催)

応用生態工学会誌に掲載された論文のうち、北海道をフィールドとした研究・事例や北海道在住の研究者や技術者が著者(連名含む)の論文の解説と展望についてお話しいただく機会を企画しました。

応用生態工学への理解を深め、さらなる研究や現場への展開を図ることを目的とします。

- 日時：2019年5月31日(金) 13:30~17:00
- 場所：札幌エルプラザ 2F 環境研修室(北海道札幌市)
- 主催：応用生態工学会札幌
- 参加費：学生無料、個人会員 500 円、非会員 1,000 円
- ◆ 詳細は以下参照

URL: <http://jp.a-rr.net/jp/news/member/3386.html>



【JRRN 会員からの提供情報】

■ 第14回 隅田川クリーン大作戦 (6/15開催)

東京の「母なる隅田川」への愛着を高め、よりよい水辺環境を創り出していくことを目的に、今年も隅田川クリーン大作戦を開催致します。隅田川沿いの清掃活動を通じて、隅田川に架かる世界に誇る名橋の偉容や年々変遷する川沿いの景観を愛でませんか。お友達やご家族、職場の仲間とご一緒に是非ともご参加下さい。



- 日時：2019年6月15日(土) 9:00~12:00
- 場所：隅田川中流域~下流域
- 主催：隅田川流域クリーンキャンペーン実行委員会
- 参加費：無料
- ◆ 詳細は以下参照

<http://jp.a-rr.net/jp/news/member/3382.html>

【海外からの提供情報】

■ 「RRC (英国河川再生センター) 最新会報」紹介



RRC (英国河川再生センター) の最新会報 (2019年3月号) が事務局より届きました。

本号では、2019年英国河川賞の最終選考4河川や本年4月開催 RRC 総会の基調講演者の紹介、また RRC 主催の河川再生研修コース等が紹介されています。

◆ 詳細は以下参照

<http://jp.a-rr.net/jp/news/member/3376.html>

【海外からの提供情報】

■ 「ECRR (欧州河川再生センター) eNEWS 最新号」紹介



ECRR (欧州河川再生センター) の eNEWS 最新号 (2019年4月号) が事務局より届きました。

本号では、欧州における河川環境再生に向けたダム撤去の取り組み、ロシアで開催される Clean Water 国際シンポジウムやブリスベンで開催される国際河川シンポジウム 2019 の案内、魚類生息環境改善に向けた研修等が紹介されています。

◆ 詳細は以下参照

<http://jp.a-rr.net/jp/news/member/3379.html>

会議・イベント案内 (2019年5月以降) *Event Information*

(国内の河川・流域再生に関する主なイベント)

■巡回展「雨展～あらぶる雨・めぐみの雨～」

- 日時：2019年5月14日(火)～6月26日(水)
 ○主催：国土交通省 関東地方整備局 渡良瀬川河川事務所
 ○場所：わたらせ 川のふれあい館「せせら」 渡良瀬グリーンプラザ
 3階 (栃木県足利市)

<http://jp.a-rr.net/jp/news/event/2945.html>

■第1回北海道の応用生態工学 掲載論文の解説と展望その1

- 日時：2019年5月31日(金) 13:30～17:00
 ○主催：応用生態工学会札幌
 ○場所：札幌エルプラザ 2F 環境研修室 (北海道札幌市)
 URL: <http://jp.a-rr.net/jp/news/member/3386.html>

■第14回隅田川クリーン大作戦

- 日時：2019年6月15日(土) 8:45～12:00
 ○主催：隅田川流域クリーンキャンペーン実行委員会
 ○場所：隅田川中流域の桜橋から下流部の勝間橋までの約
 8km 両岸 (東京都中央区 他)

<http://jp.a-rr.net/jp/news/event/2947.html>

■第3回 RAC リーダー養成講座 IN 美山川 2019

- 日時：2019年6月23日(日) 及び 7月6日(土)～7日
 (日) の三日間
 ○主催：NPO 法人 芦生自然学校
 ○場所：由良川 (京都府 南丹市美山町)

<http://jp.a-rr.net/jp/news/event/2961.html>

■第9回マザーレイクフォーラムびわコミ会議 2019 ～びわ湖のこれまで、そしてこれから～

- 日時：2019年8月31日(土) 10:00～16:30
 ○主催：マザーレイクフォーラム運営委員会・滋賀県
 ○場所：コラボしが21 (滋賀県大津市)

<http://jp.a-rr.net/jp/news/event/2949.html>

■第27回リバーフロント研究所研究発表会

- 日時：2019年9月13日(金)
 ○主催：公益財団法人リバーフロント研究所
 ○場所：日本橋社会教育会館 (東京都中央区)

<http://jp.a-rr.net/jp/news/event/2952.html>

冊子等の紹介 *Publications*

■小さな自然再生サミット～できることから始めよう～ 2019 神戸大会 開催報告 (2019.2 発行)

- ・発行：日本河川・流域再生ネットワーク (JRRN)
- ・発行年月：2019年2月
- ・ページ数：43ページ



2019年1月26日(土)～27日(日)に神戸にて開催しました『小さな自然再生サミット 2019 神戸大会』の開催成果報告書です。

この開催報告は、サミット参加者とともに学び議論した内容の一部を、当日の写真とともに皆様にご紹介するものです。

■「できることから始めよう 水辺の小さな自然再生事例集」(2015.3 発刊)

- ・監修：玉井信行 東京大学名誉教授 / JRRN 顧問
- ・編著：「小さな自然再生」事例集編集委員会
- ・発行：日本河川・流域再生ネットワーク (JRRN)
- ・出版年月：2015年3月



本事例集は、小さな自然再生の実践を通じてその技術普及に尽力されている専門家の方々、専門知識の社会への橋渡しの専門家、そして有志の若手研究者や実務者で構成される「小さな自然再生事例集編集委員会」が、小さな自然再生の全国への普及を目的として制作したものです。

■上記冊子の入手方法 ※PDF版はこちらから: <http://jp.a-rr.net/jp/activity/publication/>

JRRN 会員募集中 JRRN membership

■ JRRN の登録資格（団体・個人）

JRRN への登録は、団体・個人を問わず**無料**です。市民団体、行政機関、民間企業、研究者、個人等、所属団体や機関を問わず、河川再生に携わる皆様のご参加を歓迎いたします。

■ 会員の特典

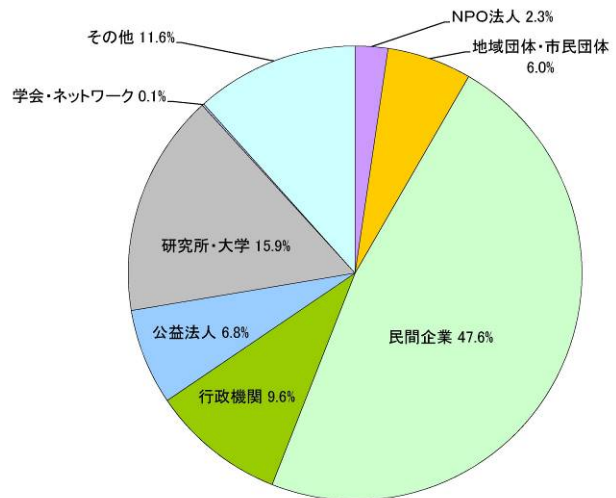
会員登録をされた方々へ様々な「会員特典」をご用意しています。

- (1) 国内外の河川再生に関するニュースを集約した「JRRN ニュースメール」が週 1 回メール配信されます。
- (2) 国内外のセミナー、ワークショップ等の開催情報が入手できます。また JRRN 主催行事に優先的に参加することが出来ます。
- (3) 必要に応じた国内外の河川再生事例等の情報収集の支援を受けられます。
- (4) JRRN を通じて、河川再生に関する技術情報やイベント開催案内等を国内外に発信できます。
- (5) 韓国、中国をはじめとする、ARRN 加盟国内の河川再生関連ネットワークと人的交流の橋渡しの支援を受けられます。

■ 会員登録方法

詳細はホームページをご覧ください。

<http://www.a-rr.net/jp/member/registration.html>



2019年4月30日時点の個人会員の所属構成
(個人会員数：793名、団体会員数：60団体)

※4月の新規入会数：個人会員 1, 団体会員 0

JRRN 会員特典一覧表（団体会員・個人会員）

提供サービス	JRRN 個人会員	JRRN 団体会員	非会員 (一般)
1 ホームページへのアクセス及び記事へのコメント入力 ※1	◎	◎	◎
2 ホームページ「イベント情報」欄でのイベント掲載 ※2	◎	◎	◎
3 ニュースメール(週1回)の配信 ※3	◎	◎	×
4 Newsletter(毎月)及び年次報告書(年1回)等の発刊案内メールの配信 ※3	◎	◎	×
5 JRRN/ARRN主催行事の優先案内・優先参加 ※4	◎	◎	×
6 国内外の河川再生関連情報・技術収集や専門家・組織紹介の支援 ※5	◎	◎	×
7 ホームページ「会員からのお知らせ」内及びニュースメール「会員からのご案内」欄で団体が関わる行事・出版物・製品等の案内の掲載 ※6	△※7	◎	×
8 ホームページ「会員登録状況」「国内団体」内及び年次報告書内で団体名の掲載	×	◎	×
9 ARRN活動に関連する英語ニュース(ARRN Newsletter等)の不定期配信 ※8	×	◎	×
10 JRRN及びARRNが保有する国内外専門家・団体等との連携等の支援 ※9	×	◎	×

会員特典詳細はウェブサイト参照：<http://www.a-rr.net/jp/member/benefit.html>

【お気軽にお問い合わせください】

日本河川・流域再生ネットワーク(JRRN) 事務局



〒104-0033 東京都中央区新川 1 丁目 17 番 24 号 NMF 茅場町ビル 7 階 (公財) リバーフロント研究所 内

Tel:03-6228-3865 Fax:03-3523-0640 E-mail: info@a-rr.net

URL: <http://www.a-rr.net/jp/> Facebook: <https://www.facebook.com/JapanRRN>